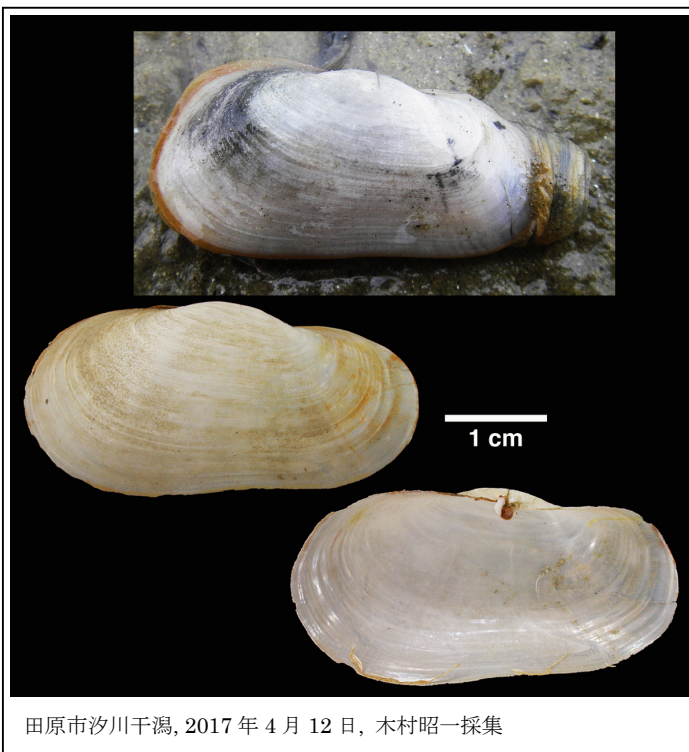


ソトオリガイ *Exolaternula liautaudi* (Mittre)

【選定理由】

本種は内湾の河口域や奥部の泥干潟に生息する。県内でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。本種は現在でも汐川干潟（藤岡・木村，2000）、豊川河口域（松岡ほか，1999）、矢作川河口域などの三河湾奥部に健全な個体群が残っている。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。和田ほか（1996）では、危険とランクされている。



田原市汐川干潟，2017年4月12日，木村昭一採集

【形態】

殻長約 45 mm で、殻は長楕円形で膨らみは強い。殻は非常に薄く、白色で半透明。後端は開く。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、生息場所、個体数が減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、中国、東南アジア。国内では北海道以南九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は悪化しているため、本種の生息場所、個体数とも減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

葉山しおさい博物館（2001）では相模湾の個体群が消滅寸前にランクされている。

【引用文献】

藤岡えり子・木村妙子，2000. 三河湾奥部汐川干潟の 1998 年春期における底生動物相. 豊橋市自然史博物館研究報告，10: 31-39.

葉山しおさい博物館，2001. 相模湾レッドデータ 貝類，104pp.

松岡敬二・木村妙子・木村昭一・三谷水産高等学校増殖部・山口啓子・高安克己，1999. 豊川下流域の貝類相. 豊橋市自然史博物館研究報告，9: 15-24

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏，1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)